

S A I T O
INTERNATIONAL
CULTURE PARK

彩

東 部 地 区 の ご 案 内

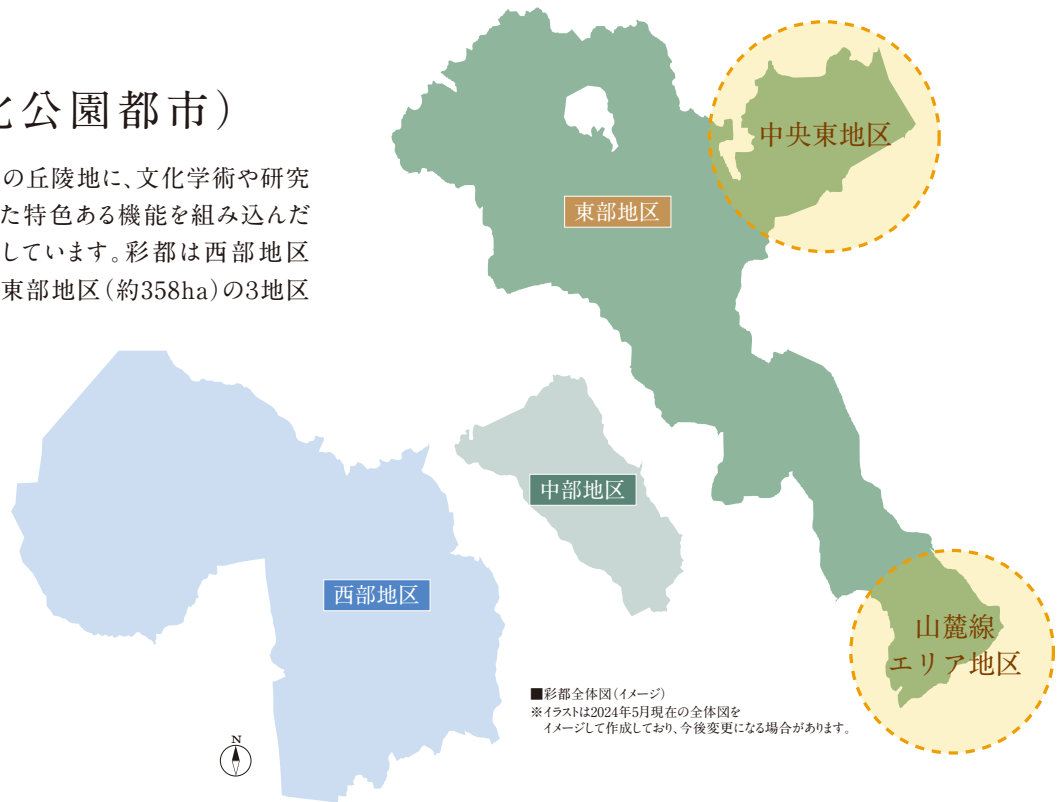
都



彩都のまちづくり

■ 彩都（国際文化公園都市）

彩都は、北大阪（箕面市・茨木市）の丘陵地に、文化学術や研究開発、国際交流、産業集積といった特色ある機能を組み込んだ時代を先導する都市づくりをめざしています。彩都は西部地区（約313ha）・中部地区（約63ha）・東部地区（約358ha）の3地区（総面積約734ha）で構成され、西部地区及び中部地区に続き、現在は東部地区でまちづくりが進められています。



■ 彩都周辺

新名神高速道路《茨木千提寺ICから約5分》

2017年12月に高槻IC～川西IC間が開通し、茨木千提寺ICが設置されました。また、2022年3月には茨木千提寺ICから東部地区へ直結する都市計画道路大岩線が開通し、アクセス性が更に向上しています。



茨木千提寺IC付近(2023年10月)

安威川ダム

安威川ダムが2023年9月に本格運用を開始し、その周辺では都市公園「ダムパークいばきた」が2024年4月に一部供用開始されました。日本最長となる歩行者専用吊り橋等は、2024年12月の供用開始を目指し、整備が進められています。



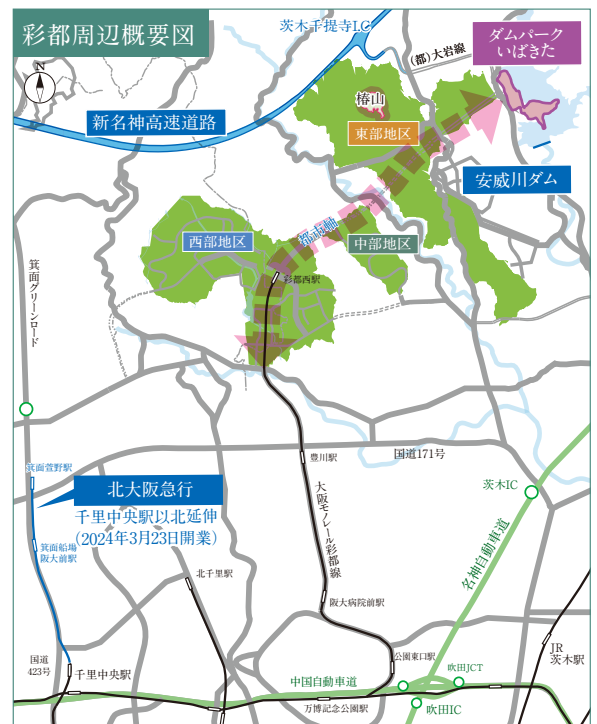
ダムパークいばきた

安威川ダム

※計画プランは2024年4月時点での想定です。変更の可能性があります。

北大阪急行延伸

北大阪急行線が「千里中央駅」から北へ約2.5km延伸し、千里中央駅～箕面萱野駅間が2024年3月23日開業しました。今後更に大阪中心部への利便性が向上します。



※掲載の地図は、一部の道路および建物を省略して描いております。
 ※掲載内容は2024年5月調査時点のものです。

西部地区(約313ha)

2004年4月 まちびらき

モノレール

大阪モノレール(彩都線)が万博記念公園駅と彩都西駅を結び、人口約18,100人、世帯数約6,300の都市に成長しました。(2024年3月末)



彩都ライフサイエンスパーク(LSP)

彩都のシンボルゾーンである彩都ライフサイエンスパーク(LSP)には、バイオ・医薬等のライフサイエンス分野の研究・技術開発施設が集積しています。



西部地区(2023年10月)

施設導入地区

西部地区に位置する施設導入地区は、大阪中心部から20km、標高200mの安定した地盤にあり、大阪中心部からのアクセスが容易であることから、順次、研究・開発施設やデータセンターの建設が進むなど、機能の拡充・分散先として好評です。

中部地区(約63ha)

2016年春 造成工事完了

高速道路網への近接性を活かして、万代彩都物流センターやプロジスパーク茨木、MFLP茨木などの大型物流施設をはじめとした事業所等が既に立地し、雇用創出が進んでいます。



VRIによる将来整備イメージ(2022年3月作成)



中部地区全景(2023年10月)

東部地区(約358ha)

現在施行中

2020年3月に山麓線エリア地区、2021年3月に中央東地区で土地区画整理事業が完了し、製造施設や大規模物流施設が既に立地しています。

山麓線エリア地区(約24.9ha)

(株)資生堂の大阪茨木工場・西日本物流センターや、阪急阪神不動産(株)と三菱地所(株)によるロジスタ・ロジクロス茨木彩都が進出しています。



山麓線エリア地区(2023年12月)

中央東地区(約47.1ha)

(株)瑞光などの製造施設や福岡運輸(株)などの物流施設が立地しています。また、多彩な遊具と芝生広場が特徴の「彩都はなだ公園」(2021年4月オープン)は、地域住民の憩いの場となっています。



中央東地区(2023年10月)

彩都東部地区のまちづくり（土地利用）

めざす都市像（土地利用方針（案））

～新たな価値を創造する複合機能都市の形成～

多様な価値観やニーズに応える、
「産業」「健康」「環境」を柱とした職住近接型のまち

1. 大阪経済の発展に寄与するものづくり企業などの産業拠点の形成

名神・新名神高速道路などの国土軸に直結した交通利便性の高さを最大限に活かし、大阪府内での産業用地の受け皿として、関西をけん引する企業の府外への流出防止や、府外からの企業誘致の促進を通じて、大阪経済の成長・発展につなげるとともに、北大阪地域での新たな雇用創出による地域活力の活性化をめざします。

2. 茨木市北部において、多様な世代の健康と安心な生活をささえるまちづくり

茨木市北部地域の高齢化の進展状況などを勘案して、福祉・介護などの生活支援型サービス機能の導入を図るとともに、健康医療等に関する産業施設の誘致など、多様な世代の安心な生活をささえるまちづくりをめざします。

3. 都市の脱炭素化や豊かな自然を活かした環境配慮型のまちづくり

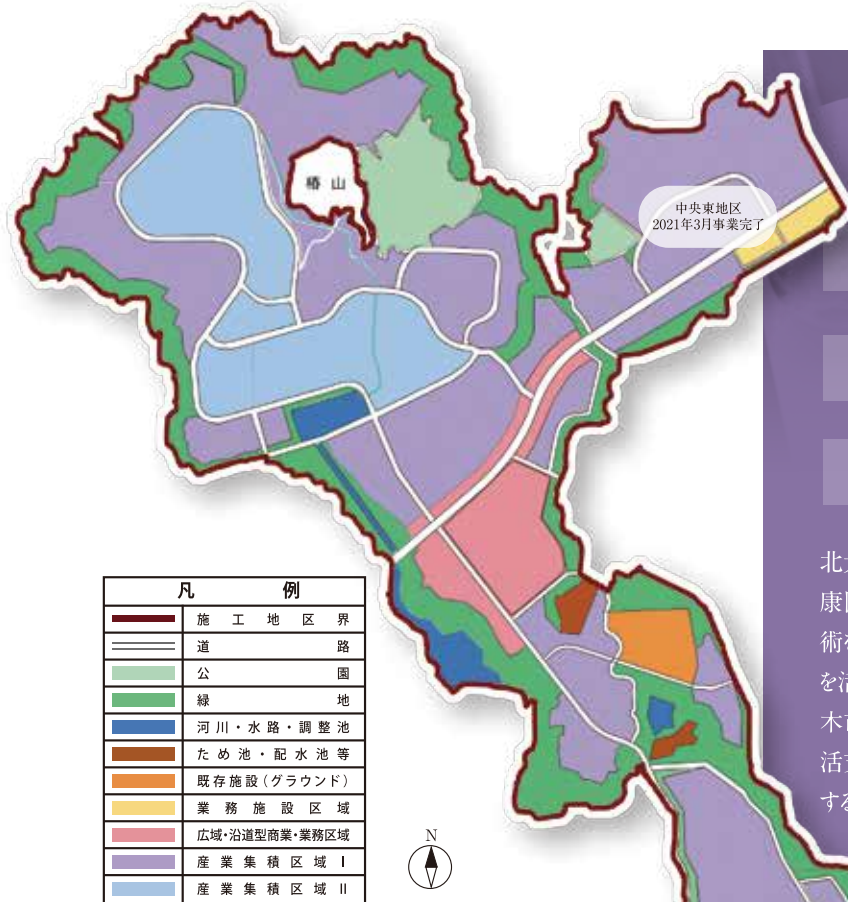
茨木市北部地域の豊かな緑や安威川ダムの水辺空間などの自然資源を活かすとともに、良好な景観にも配慮し、民間投資の促進を通じた脱炭素社会の構築を図り、みどりとふれあい、憩いとうるおいのある都市空間の形成をめざします。

事業化に向けて

地域の発展につながるプロジェクトとして

- 東部地区は、名神・新名神高速道路などの国土軸に直結した交通利便性の良さや、安威川ダム周辺地域の魅力向上に向けた環境整備が進められるなど、これからの発展が期待されています。
- これらの立地の優位性や地域ポテンシャルを活かしたまちづくりの早期事業化を目標に官民協力体制で取り組んでいます。ご興味をお持ちの方や進出意欲のある方は、彩都建設推進協議会までお問い合わせください。
- 東部地区においては、骨格道路の周辺や大街区の長大法面・緑地等の景観要素に関する配慮事項をまとめた「彩都東部地区景観形成ガイドライン」を彩都建設推進協議会が作成し、東部地区全体の良好な景観形成が図られるよう誘導しています。

土地利用計画(案)



※表示している土地利用方針(案)及び土地利用計画(案)は、2019年5月時点でのめざすべき街の姿であり、今後、彩都東部地区全体の段階的な整備が見込まれるため、社会経済情勢や周辺環境の変化に対応した見直しを行います。

産業集積区域Ⅰ (約66ha)

北部の良好な山並み景観と融合できるエリア

広域・沿道型商業・業務区域の周辺エリア

山手台に隣接したエリア

北大阪地域のライフサイエンスのポテンシャルを活かした健康医療関連産業や、第4次産業革命に関する新たな技術を利用したものづくり産業や流通施設など、大阪の強みを活かし、府内での再投資及び府外からの企業誘致、茨木市北部地域の高齢化に配慮した福祉・介護などの生活支援型サービス施設や、健康医療等の生活支援に資する産業・研究開発施設の誘致を図る区域です。

image

山麓線エリア地区
2020年3月事業完了

産業集積区域Ⅱ (約37ha)

新たな雇用創出などによる地域活力の向上を図るとともに、産業拠点の形成による大阪経済の発展をめざし、交通利便性や操業環境など企業ニーズに応えられる彩都東部地区の立地特性を活かし、製造・生産工場など大規模で幅広い用途の施設誘致を図る区域です。

周辺集落への影響に配慮するため
自然環境を活かした緑地や
産業集積区域Ⅰにより囲まれたエリア

image

広域・沿道型商業・業務区域 (約20ha)

彩都の周辺住民だけでなく、安威川ダムのレクリエーション施設への来訪者なども含め、広域から集客できる複合的で時間消費型(コト体験型)な商業施設等の誘致を図り、北大阪地域の新たな地域拠点として賑わいを創出する区域です。

東部地区の骨格となる
茨木箕面丘陵線の沿道エリア

image

東部地区の優位性・利便性

バイオ・医療産業のブランド力

西部地区のライフサイエンスパークに限らず、国立循環器病研究センター関連企業が集約された「健都」にも近接しています。

自然と調和する都市環境

北摂の都市近郊の丘陵地の自然に囲まれ、既成市街地にはない豊かな都市環境が魅力です。

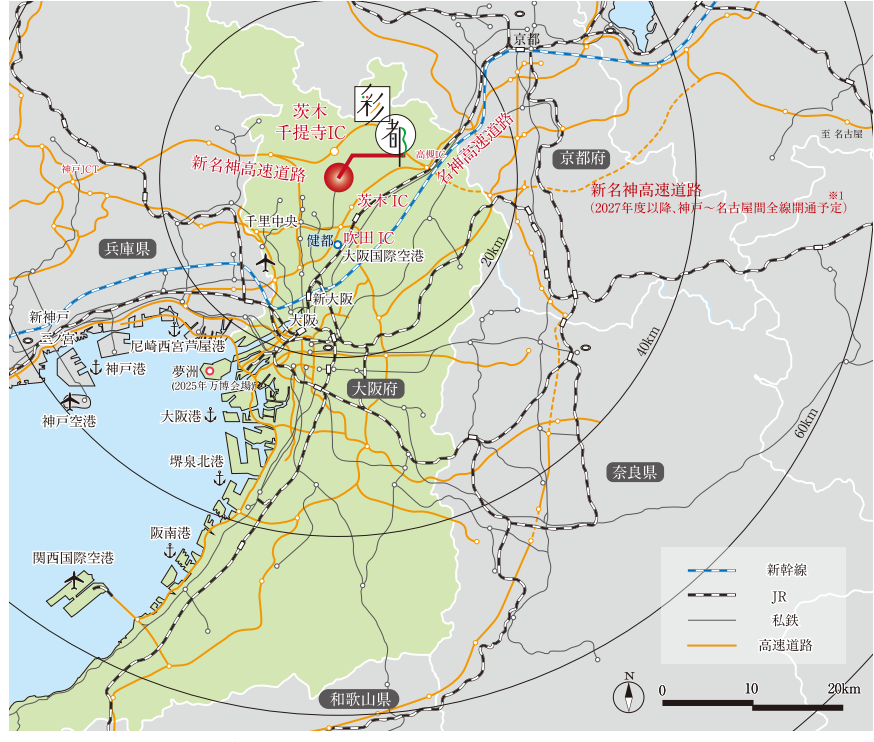
大規模マーケットに隣接

彩都の50km圏内には約1500万人の人口を有する大規模マーケットが存在しており、北大阪地域及び大阪市域に限っても、約450万人が居住し、雇用環境も良好です(2020年国勢調査)。

BCP(事業継続計画)やDR(災害復旧)の拠点に

国土軸に直結し、相対的に大規模災害の恐れが少ない東部地区は、リスク分散・バックアップの拠点として、業務・生産・情報管理機能等の受け皿に適しています。

- 国土軸を形成する高速道路網に至近**
 - 新名神高速道路 茨木千提寺ICから **約5分**
 - 名神高速道路 茨木ICから **約10分**
 - 海空の玄関口にも近接**
 - 大阪国際(伊丹)空港・大阪港が **15~25km圏内** 神戸空港や神戸港にもアクセス可能
 - 大阪都心部までの鉄道アクセスも良好**
 - 新大阪まで **約37分**
 - 梅田まで **約44分**
- ※時間帯により異なります



※1.NEXCO西日本ホームページ、2022年2月9日公表のニュースリリースより。
 ※掲載の地図は、一部の道路および建物を省略して描いております。※掲載内容は2024年5月調査時点のものです。

今後の開発予定



D-1区域
2023年3月
土地区画整理準備組合設立

事業展開イメージ図(案)
(2024年5月時点)

東部地区全体開発計画案の主な内容

- 1 産業・業務施設を主体とする土地利用計画をめざす
- 2 造成面積を概ね最大50haに抑え、6つの区域に分割し、各々の区域で業務代行方式による組合土地区画整理事業の事業化をめざす
- 3 骨格道路(茨木箕面丘陵線)を含む区域からの整備が、もっとも効率的で、東部全域のポテンシャルが期待できることなどから、C区域からの事業化をめざす

C区域

2021年9月 土地区画整理組合設立認可を取得
事業年度 2021年9月～2026年度末

A区域

2021年11月 土地区画整理事業施行認可を取得
事業年度 2021年11月～2026年度末

VR映像を利用した開発イメージ動画をHPにて公開しています | <https://www.osaka-saito.jp>



※航空写真は2023年10月に撮影した画像にCG合成を施しております。

彩都(国際文化公園都市)建設推進協議会とは

□目的

当協議会は、「彩都」の形成に関する調査研究、企画立案などを行うことにより、彩都建設の推進に寄与することを目的としています。

□構成

彩都建設に直接関係する大阪府・茨木市・箕面市・都市再生機構・民間事業者及び彩都建設に賛同する経済団体・公益団体・大学・研究機関・民間企業などの代表者



みどりともiraいの
みえる丘

彩都(国際文化公園都市)建設推進協議会

〒559-8555

大阪市住之江区南港北1-14-16 大阪府咲洲庁舎33F
(大阪都市計画局 拠点開発室 戦略拠点開発課内)

TEL 06-7506-9343 FAX 06-7506-9722

e-mail info@saito.tv

<https://www.osaka-saito.jp>

詳しくはホームページをご覧ください。

彩都協議会

検索



※表紙掲載の航空写真は2023年10月に撮影した画像に一部CG合成を施しております。